

多文化社会実践研究・全国フォーラム（第8回） 多様性があたりまえの社会をめざして

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センターは多文化社会実践研究・全国フォーラムを毎年開催しています。8回目となる今回は「多様性があたりまえの社会をめざして」をテーマに、「多様性」を所与としながら国民国家を形成するということはどのように追求できるのか、多文化共生社会とはいったいどのような社会なのか、多様性が尊重され、それがあたりまえとなる日本社会のあり方とはいかなるものなのか、を論じていきます。

日時

2014年12月13日(土) 13:00~18:00
(懇親会 18:15~19:30)

場所

東京外国語大学 府中キャンパス
(西武多摩川線 多磨駅徒歩5分)

内容

※詳細はセンターHPをご覧ください（内容など若干変更する場合があります）。

13:05 ~13:30	<p>●基調講演 立石 博高（東京外国語大学長） 「スペインにおける多文化共生とは」</p> <p>●研究発表セッション ◇個人／グループ発表 日本の多言語・多文化化に取り組んでいる研究者および実践者（自治体、国際交流協会、NPOなどの職員など）による発表（発表者・発表内容はセンターHPをご覧ください）</p>
13:40 ~15:50	<p>●特定課題セッション ◇コミュニティ通訳研究報告 ・倫理綱領策定に向けて ・遠隔通訳技能と認定制度 ◇多文化社会コーディネーター研究報告 ・認定制度実施に向けて ~専門職の知と評価の方法</p>
16:10 ~18:00	<p>●パネルディスカッション 「多様性があたりまえとなる社会とは？」 ○パネリスト 石田 光（株式会社夢道s代表取締役） 小林 普子（特定非営利活動法人みんなのおうち副代表） 友常 勉（本学国際日本研究センター准教授） 山内由理子（本学大学院総合国際学研究院特任准教授） ○モデレーター 長谷部美佳（本センター特任講師）</p>
18:15 ~19:30	<p>●懇親会（学内）</p>

入場無料

（懇親会のみ3,000円）

申込方法

本センターHPの申込フォームからお申し込みください（定員200人）。

主催・問い合わせ

東京外国語大学
多言語・多文化教育研究センター
http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/
（「多言語・多文化教育」で検索）
TEL:042-330-5441
FAX:042-330-5448
E-mail:tc-zenkoku@tufs.ac.jp



当日参加された方で希望者には「在日タイ語圏児童のための漢字教材」（2年生/3年生）印刷見本版をさしあげます（お1人様/1団体1冊）。

第302号 自治体国際化フォーラム12月号

平成26年11月15日発行

編集人 黒瀬 敏文
発行所 一般財団法人自治体国際化協会
〒102-0083
東京都千代田区麹町1-7
相互半蔵門ビル
Tel. (03) 5213-1722
Fax. (03) 5213-1741
Homepage <http://www.clair.or.jp/>
E-mail forum@clair.or.jp
編集協力・印刷 エイト印刷株式会社

本書からの無断複写・転載を禁じます。

編集後記

11月5日は津波防災の日、そして11月上旬から中旬にかけて「秋の全国火災予防運動」が実施されていることから、この時期、多くの自治体で防災訓練が実施されていることと思います。

本号の「多文化共生のとびら」では、避難所宿泊訓練の様子を紹介しています。全国の皆さまにとって参考になる取り組みだと思っておりますので、ぜひお読みいただければ幸いです。

東日本大震災後、宿泊や避難所運営など参加者の積極的な関わりのもとで実施される防災訓練が増えている印象を受けます。東日本大震災を通じ感じたことは、平時にしていけないことは、非常時にいきなりやろうと思ってもできないということです。平時において具体性・実行性のある訓練を実施することが、災害発生後の混乱状態における素早い初期対応につながるのではないのでしょうか。（MK）